

第66号
H26年3月25日

発行 結城地域農業改良普及センター
TEL 0296-48-0184 FAX 0296-48-2682
HP <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/noucenter/fukyu/yuki/>
<http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kensei/youki/index.htm>



儲かる農業は人材育成・営業活動から！ -結城地域 未来へつながる農業フォーラム開催-

2月25日、八千代町中央公民館大ホールに農業者、集出荷業者職員、産地市場職員、関係機関等120名が集まり、「結城地域 未来へつながる農業フォーラム」と題して、農業の担い手育成と経営改善を目的とした講演会を開催しました。

講師には、長野県で農業生産法人のトップリバーを経営されている嶋崎社長をお招きして、人材育成と営業活動の必要性についてご講演いただきました。「まかせる事で人は育つ」や「農業で儲かるためには営業活動が生産活動の2倍も重要」などの嶋崎社長の経験に基づく言葉に会場は圧倒されました。

その後、普及センターから経営改善の必要性、法人化、良い人材を確保するための求人の方等について講習を行いました。

来場者からは、「経営に対する自分の考えの甘さを痛感した。」、「家の経営を息子に渡していくうえで心構えができた。」、「社員や臨時職員のモチベーションの持たせ方が参考になった。」などの感想が聞かれ、来場者の意識改革に対して有意義なフォーラムとなりました。



熱弁中の嶋崎社長



質疑応答の様子

農薬散布時のドリフト（意図しない作物への飛散）を防止しましょう！

食品衛生法の改正により、平成18年から、原則としてすべての農薬に残留農薬基準値が設定され、この基準を超えて農薬が残留する農作物などは流通が禁止されました。

その基準値の中には0.01ppm（ドラム缶50本の水に対して農薬成分1cc）という非常に厳しいものもあり、近隣の畑から飛散したわずかな農薬でも問題となる恐れがあります。

そのため、より一層、農薬のドリフト（飛散）防止対策を徹底する必要があります。

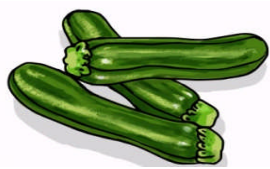
☆こんなときは特に注意が必要☆

- 収穫間近の農作物が周辺にあるとき
- 周辺圃場との距離が近いとき
- 周辺の農作物への使用が認められていない農薬を使用するとき



☆主なドリフト防止対策☆

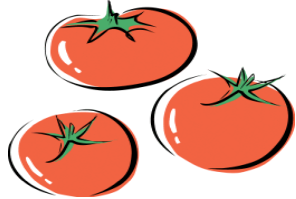
- 農薬を散布することを周辺の栽培者にも伝え、お互いに注意する。
- 周辺の農作物にも使用できる農薬を使用する。ドリフトしにくい剤型（粒剤など）の農薬を使用する。
- ドリフトが少ないノズルに付け替える。
- 農作物の作付け（混植、混作）の見直しをする。
- 風の弱いときに風向きに注意して散布する。
- 散布の方向や位置に注意する。
- 圃場などの境界に遮蔽シートを設置したり、ソルゴーなどの緑肥作物を作付ける。



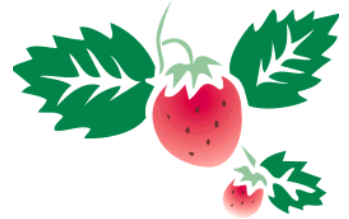
さらなる産地拡大を目指して！ -JA常総ひかりズッキーニ部会が栽培講習会を開催-

2月4日にJA常総ひかり石下地区ズッキーニ部会が栽培講習会を開催しました。既存の部会員だけでなく、来年度、新たに栽培する生産者も講習会に参加していたことから、生産者が栽培技術や作物の特性に関する基礎的な知識を習得できるよう、種苗会社が栽培技術、普及センターが病害虫について基礎的な内容の講義をしました。

普及センターからは、ズッキーニの一般的な病害虫に加え、地域で特に発生しやすい「うどんこ病」と「ウイルス病」について情報提供しました。講義後、生産者からは「ミツバチ交配の場合、ウイルス病は伝染するのか」等、多くの質問がなされました。生産者はズッキーニを栽培する中で疑問に感じる点が多いようなので、今後も普及センターはズッキーニの産地がますます発展するよう支援していきます。



第9回農業学園アグリ講座 および閉講式が開催されました！



3月14日、「6次産業化」をテーマに、茨城県6次産業化プランナーの山本恵氏を講師として招き、第9回農業学園アグリ講座および結城地域6次産業化学習会を同時開催し、農業学園生や管内加工起業者計12名が参加しました。

はじめに、『6次産業化の概要と売れる商品作りについて』と題し、山本先生から加工品作りを成功させるためのポイントについてお話がありました。「商品作りのキーワードは、【ストーリーづくり】と【モノづくり】である。」「生産者の立場ではなく、消費者の立場で商品を考える。」など、加工品の開発から消費者の方に食べてもらうまでのプロセスについて、実際に販売している加工品を例にあげるなど、わかりやすく説明していただきました。

次に普及センターより『県内の6次産業化の事例』の紹介を行ったあと、『加工品から学ぶ商品PR術～実際に加工品を手にとって～』と題し、県内外の加工品を実際に見ながら、商品の特征などについて意見交換を行いました。

また講座終了後、農業学園閉講式を行いました。閉講式では小島センター長から「これまでの講座で学んだことを実践してもらいたい。またここで出会った仲間を大切にしてほしい。」と農業学園生へエールを送りました。

農業学園生は、この一年間、土づくりや病害虫防除についての講座、先輩農業者や種苗メーカーの視察などを通じて、農業について理解を深められたのではないかと思います。

普及センターでは、来年度も地域の担い手となる若手農業者の育成と仲間づくりを支援できるような講座を企画していきます。



講習会の様子



加工品を手にとりながら
意見交換